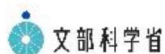


令和6年度
小・中学校GIGAスクール教科等研究集会

小 学 校 国 語



徳島県教育委員会



文部科学省

令和6年度 小学校及び中学校各教科等担当指導主事連絡協議会 小学校 国語科部会

【本日の内容】

- 1 令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 伝達事項
- 2 ICTを活用した授業事例
- 3 部会別課題について

学習指導要領の位置付け



小学校に教育課程については、この節に定めるもののほか、教育課程の基準として文部科学大臣が別に公示する小学校学習指導要領によるものとする。

(学校教育法施行規則 第四章 第二節 第五十二条)

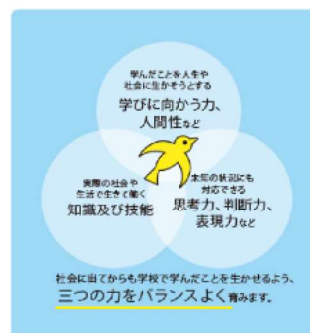
大網的な基準である学習指導要領の記述の意味や解釈などの詳細について説明するために、文部科学省が作成するものであり、小学校学習指導要領第2章第1節「国語」について、その改善の趣旨や内容を解説している。

(学習指導要領解説まえがき)

(第1章 総説 2国語科の改訂の趣旨及び要点)

国語で理解したり表現したりする様々な場面の中で生きて働く「知識及び技能」として身に付けるために、思考・判断し表現することを通じて育成を図ることが求められるなど、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は、相互に関連し合いながら育成される必要がある。

こうした「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の育成において大きな原動力となるのが「学びに向かう力、人間性等」である。「学びに向かう力、人間性等」については、教科及び学年等の目標においてまとめて示し、指導事項のまとまりごとに示すことはしていない。教科及び学年等の目標において挙げられている態度等を養うことにより、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の育成が一層充実することが期待される。



「話すこと・聞くこと」領域における課題



- 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、**自分の考えをまとめること**に引き続き課題がある。(r4)
- 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、**自分の考えをまとめること**に課題がある。(r5)

話すこと	ア 話題の設定 情報の収集 内容の検討	イ 構成の検討 考えの形成	ウ 表現 共有
聞くこと	(話題の設定) (情報の収集)	エ 構成と内容の把握 精査・解釈 考えの形成 共有	
話し合うこと	(話題の設定) (情報の収集) (内容の検討)	オ 話し合いの進め方 考えの形成 共有	

(令和6年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)⁸

「書くこと」領域における課題



- 目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、**自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること**に課題がある。(r3)
- 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに課題がある。(r4)
- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題がある。(r4)
- 図表やグラフなどを用いて、**自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること**に課題がある。(r5)

ア 題材の設定 情報の収集 内容の検討	イ 構成の検討	ウ 考えの形成 記述	エ 推敲	オ 共有
------------------------------	------------	-------------------------	---------	---------

(令和6年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)⁹

「読むこと」領域における課題



- 目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることに課題がある。(r3)
- 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。(r3)
- 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることに課題がある。(r4)
- 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題がある。(r4)
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに引き続き課題がある。(r5)
- 文章を読んで理解したことに基づいて、**自分の考えをまとめること**に課題がある。(r5)

ア 構造と内容の把握 (説明的な文章)	ウ 精査・解釈 (説明的な文章)	オ 考えの形成	カ 共有
イ 構造と内容の把握 (文学的な文章)	エ 精査・解釈 (文学的な文章)		

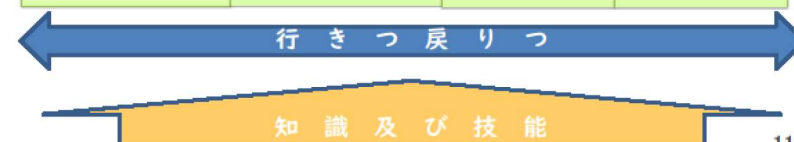
10

(令和6年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

学習課程の明確化、「考えの形成」の重視



A 話すこと ・聞くこと	話すこと	ア 話題の設定 情報の収集 内容の検討	イ 構成の検討 考えの形成	ウ 表現 共有	
	聞くこと	(話題の設定) (情報の収集)	エ 構成と内容の把握 精査・解釈 考えの形成 共有		
	話し合うこと	(話題の設定) (情報の収集) (内容の検討)	オ 話し合いの進め方 考えの形成 共有		
B 書くこと	ア 題材の設定 情報の収集 内容の検討	イ 構成の検討	ウ 考えの形成 記述	エ 推敲	オ 共有
	ア 構造と内容の把握 (説明的な文章)	ウ 精査・解釈 (説明的な文章)	イ 構造と内容の把握 (文学的な文章)	エ 精査・解釈 (文学的な文章)	オ 考えの形成 共有



11

(令和6年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

GIGAスクール構想のもとでの国語科の指導において ICTを活用する際のポイント

国語科における「学習過程」とICTの活用場面

新学習指導要領では、国語科の指導の改善・充実を図る観点から、〔思考力、判断力、表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けた。GIGAスクール構想のもとでのICTの効果的な活用についても、この学習過程を踏まえて、活用場面を考えることができる。

国語科の学習過程 ※必ずしも一方、順序性のある流れではない。

考えられるICT活用場面

※以下の各場面は、あくまで本資料として便宜的に挙げたものであり、特定の学習過程と紐づくものでも、園地的に捉えるべきものでもない。

A 話すこと・聞くこと			B 書くこと	C 読むこと	
<話すこと>	<聞くこと>	<話し合うこと>			
話題の設定	話題の設定	話題の設定	題材の設定	構造と内容の把握	情報を収集して整理する場面
情報の収集	情報の収集	情報の収集	情報の収集		
内容の検討	構造と内容の把握	内容の検討	内容の検討	精査・解釈	自分の考えを深める場面
構成の検討	精査・解釈	話し合いの進め方の検討	構成の検討		考えたことを表現・共有する場面
考えの形成	話し合いの進め方の検討		考えの形成	考えの形成	知識・技能の習得を図る場面
表現	考えの形成	考えの形成	記述		
共有	共有	共有	推敲	共有	学習の見通しをもったり、学習した内容を蓄積したりする場面
			共有		

(令和4年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

GIGAスクール構想のもとでの国語科の指導において ICTを活用する際のポイント

場面に応じた国語科におけるICT活用のイメージ(例)

情報を収集して整理する場面

- インターネットを活用して学習課題に関連する情報を調べ、集めた情報を内容に応じて整理する。
- 収集した情報を各自のフォルダに保存し、表計算ソフトなどを活用してデータベース化する。

自分の考えを深める場面

- 自分で考えたことを画面上の付箋に書き出し、その付箋を目的や意図に応じて分類する。
- プレゼンテーションソフト上でスライドを並べ替えるなどして、自分の伝えたいことがより明確に伝わるよう、目的や意図、相手に応じて用いる情報を取捨選択したり、話や文章の構成を考えたりする。
- デジタル教科書上で自分が重要だと考えた箇所に線を引き、友達と比較するなどして、考え直した場合に線を引き直す。

考えたことを表現・共有する場面

- カメラ付のICT端末を使って録画・保存したスピーチや話し合いの動画を、各自で再生しながら話し方等を確認し、良い点や改善点についてコメントをフォルダ内の共有ファイルに書き込む。
- プレゼンテーションソフトを活用して、各自のテーマに即した発表資料をそれぞれ作成する。

知識・技能の習得を図る場面

- 古文や漢文等の教材となる動画を各自の目的に応じて選択・視聴し、言葉の響きやリズムに親しむ。
- 書写の指導において、デジタル教科書等を活用して、点画の書き方への理解を深める。

学習の見通しをもったり、学習した内容を蓄積したりする場面

- 各自の目的に応じてモデルとなるスピーチの動画を視聴し、学習の見通しをもつ。
- 以降の学習における様々な学習活動において自分の必要に応じて適宜参照できるように、学習した内容を個人のフォルダに蓄積する。

(令和4年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

【小学校・第2学年・国語科・学校のお気に入りの場所を1年生に紹介しよう】①

育成を目指す資質・能力(主たる指導事項)

第1学年及び第2学年「A 話すこと・聞くこと」
ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。(話すこと)

ICT活用のポイント

- 学習支援ソフトを用いて、友達の撮った紹介したい場所の様々な写真の中から、紹介したい事柄に合う写真を選ぶことができたり、その場所の特徴を考えたりすることができる。
- ICT端末の写真・動画撮影機能を用いて、紹介したい場所を各自が撮影したり、紹介の練習を撮影し合い、その動画を一人でまたは友達と繰り返し視聴し、声の大きさや速さなどを確認したり工夫したりできる。

事例の概要

- ◆ 1年生に紹介したい学校内の場所をクラスで出し合い、ICT端末を用いて写真を撮ってくる。教師がそれらの写真を確認の上、共有フォルダ内に保存する。
- ◆ 写真を見ながら紹介したい場所を選び、必要な写真を自分のICT端末に保存し、紹介する事柄(その場所の様子、その場所で行えることなど)を短冊カードに書き出す。
- ◆ 短冊カードを選び、それを動かしながら「始め—中—終わり」の順序を考える。
- ◆ 紹介の練習を撮影し合い、その動画を一人でまたは友達と繰り返し視聴し、伝えたい事柄に合わせて声の大きさや速さなどを確認したり工夫したりする。
- ◆ 1年生にお気に入りの場所を、ICT端末で写真を見せながら紹介する。

(令和4年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

【小学校・第2学年・国語科・学校のお気に入りの場所を1年生に紹介しよう】②

【事例におけるICT活用の場面①】



学習支援ソフトの共有フォルダから紹介したい場所の写真を選んでいる様子

【事例におけるICT活用の場面②】



紹介の練習を撮影している様子

〈児童にとってのICT活用のメリット〉

- ・ 友達の撮った写真からも自分の紹介したい場所の写真を選ぶこと。
- ・ 様々な写真を見比べたり写真を拡大したりしてその場所の特徴を考え、紹介する事柄を集められること。
- ・ 紹介する事柄に合う写真を見せながら、1年生にお気に入りの場所の紹介ができること。

〈児童にとってのICT活用のメリット〉

- ・ 自分や友達の紹介の練習を撮影した動画を聞き手の立場から視聴し合うことで、発表する側からだけでは気付くことの難しい、伝えたい大事なところは特に大きな声でゆっくり話すことなどに気付き修正できること。

【活用したソフトや機能】

学習支援ソフト、写真・動画撮影機能

(令和4年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

小学校・第6学年・国語科 文章全体の構成や書き表し方に着目して、意見文を整えよう①

単元において育成を目指す資質・能力

筑城県提供

- 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。【知識及び技能】(1)力
- 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。【思考力、判断力、表現力等】B(1)才
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

ICT活用のポイント

- 個人・グループにおいて推敲した文章をICT端末で撮影・データに投稿し、学習支援ソフトを用いて全体で比較・検討、確認することで、考えなどを表現・共有する場面において活用することができる。

本時における学習の流れ

- 1 学習課題と例文を確認する。
- 2 グループで例文を推敲する。
- 3 推敲した内容を学習支援ソフトで全体で共有する。
- 4 本時の学習を振り返る。

事例の概要

【学習課題】

相手に主張を分かりやすく伝えるためには、文章全体をどのように推敲したらよいだろうか。

【概要】

観点 (1) 主張を支える事例(根拠)を挙げているか、(2) 事例(根拠)を示す順序は適切か、(3) アーマについて事実/考え/感想を区別して主張しているか)に基づいて推敲した意見文を記録し、全体で共有する。

本時の後、児童が自分で書いた意見文について推敲する学習を行う。

(令和4年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

StuDX Style

子供同士がつながる

1日目 国語「文章構成を学び、生活環境が、大きく変わる現代社会について考えよう。」

情報の導入と学習カード配布

付箋機能のオンライン化

アウトプットを共有して互いのよさを発見

振り返り活動のDX

チャット機能で情報共有

異年齢間で学習のまとめを作成

コメント機能を活用した学び合いの活性化

いろいろな意見を出し合ってよい意見を改めたり広めたりしよう

カレンダーで学習の計画

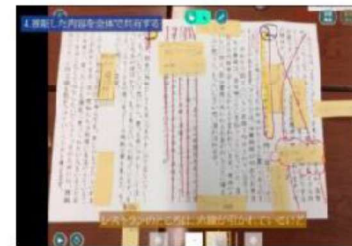
日常的に、必要な時に使えるように。

18

(令和4年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

小学校・第6学年・国語科 文章全体の構成や書き表し方に着目して、意見文を整えよう②

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】

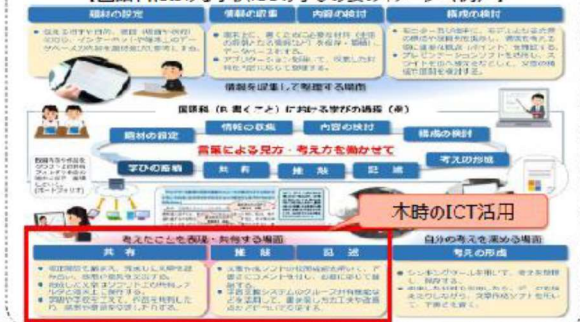


【本時におけるICTを効果的に活用するためのポイント】

- ① 学級の児童全体で推敲した文章を共有するために、教師が作成した「例文シート」に付箋を貼ったり赤鉛筆で訂正を加えたりした画像データを学習支援ソフトで各グループが提出。モニター及び手元のICT端末で全グループのプリントを確認できるようにした。
- ② 自分では気付くことのなかった推敲の内容を共有するために、教師用のICT端末から児童用のICT端末に再度画像データを配信し、他グループの「例文シート」を参考に、自力で推敲できるようにした。

【活用したソフトや機能】 学習支援ソフト(画像共有、画像の編集など)

【国語科における子供たちの学びの姿のイメージ(例)】



(令和4年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

StuDX Style

オンラインで学校の外とつながろう

作成スライドを分担した壁で協働的に解決

授業中・生徒会活動の共同作業に活用しよう

グループで話し合ったことを確認しておこう

「○○調べ」をひな形カードで書籍

「1人1シート」を相互活用

振り返り活動で相互理解

思考ツールであり、表現ツールでもある。

19

(令和4年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

語彙を豊かにすることに関する事項である。

語句の量を増すことと、語句のまとまりや関係、構成や変化について理解することの二つの内容で構成している。

中央教育審議会答申において、「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」と指摘されているように、**語彙は、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力の重要な要素である**。このため、語彙を豊かにする指導の改善・充実を図っている。

語句の量を増すことに関しては、第1学年及び第2学年では、身近なことを表す語句の量を増し、第3学年及び第4学年では、様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、第5学年及び第6学年では、思考に関わる語句の量を増しとするなど、各学年において、指導する語句のまとまりを示している。これらは、あくまでも指導の重点とする語句の目安を示したものであり、これ以外の語句の指導を妨げるものではない。**重点として示された語句のまとまりを中心としながら、学習の中で必要となる多様な語句を取り上げることが重要である**。また、**学習の中で語句を使うことを通じて、日常生活の中でも使いこなせる語句を増やし、確実に習得していくことが重要である**。

語句のまとまりや関係、構成や変化などについては、第1学年及び第2学年では、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと、第3学年及び第4学年では、性質や役割による語句のまとまりがあることを理解すること、第5学年及び第6学年では、語句の構成や変化について理解することへと展開していく。また、**第5学年及び第6学年においては、語彙に関する学習の小学校におけるまとめとして、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことを示している**。

語彙を豊かにするためには、語句の量を増すことと、語句のまとまりや関係、構成や変化について理解することの両面が必要である。

「小学校学習指導要領解説国語編P19より」

(令和6年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

知識及び技能「語彙」と「言葉の働き」の関係



学年	「言葉の働き」に関する指導事項
第1学年及び第2学年	言葉には、事物の内容を表す 働き や、経験したことを伝える 働き があることに気付くこと。
第3学年及び第4学年	言葉には、考えたことや思ったことを表す 働き があることに気付くこと。
第5学年及び第6学年	言葉には、相手とのつながりをつくる 働き があることに気付くこと。
中学校第2学年	言葉には、相手の行動を促す 働き があることに気付くこと。

○この指導事項は〔知識及び技能〕や〔思考力、判断力、表現力等〕に示す様々な内容に関連するが、例えば、〔知識及び技能〕の「**語彙**」との関連を図り、指導の効果を高めることが考えられる旨が学習指導要領解説に明記されている。
○このように知識及び技能の指導事項同士の関連を図ることが指導の効果を高める場合も考えられ、年間指導計画を立てる段階で、どのような指導が効果的であるかについても検討していただきたい。

(令和6年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

知識及び技能「語彙」



学年	指導事項
第1学年及び第2学年	身近なことを表す語句 の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には 意味による語句のまとまり があることに 気付き 、語彙を豊かにすること。
第3学年及び第4学年	様子や行動、気持ちや性格を表す語句 の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には 性質や役割による語句のまとまり があることを 理解し 、語彙を豊かにすること。
第5学年及び第6学年	思考に関わる語句 の量を増し、話や文章の中で使うとともに、 語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し 、語彙を豊かにすること。また、 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと 。
中学校第1学年	事象や行為、心情を表す語句 の量を増すとともに、 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること 。

語彙を豊かにするとは、自分の語彙を量と質の両面から充実させることである。具体的には、意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、**話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化などへの理解を通して、語句の意味や使い方に対する認識を深め、語彙の質を高めることである**。

(令和6年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

「情報の扱い方」に関する事項について

話や文章に含まれている情報の扱い方に関する事項である。

急速に情報化が進展する社会において、**様々な媒体の中から必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を分かりやすく整理したり、発信したい情報を様々な手段で表現したりすることが求められている**。一方、中央教育審議会答申において、「教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もあるところであり、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。」と指摘されているところである。

話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりすることが、話や文章を正確に理解することにつながり、また、自分のもつ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることが、話や文章で適切に表現することにつながるため、このような情報の扱い方に関する「知識及び技能」は国語科において育成すべき重要な資質・能力の一つである。今回の改訂では、これらの資質・能力の育成に向け、「情報の扱い方に関する事項」を新設した。この事項は、アの「情報と情報との関係」、イの「情報の整理」の二つの内容で構成し、系統的に示している。

「小学校学習指導要領解説国語編より」

(令和6年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

「情報の扱い方」と関連を図ることが考えられる
思考力・判断力・表現力等の例

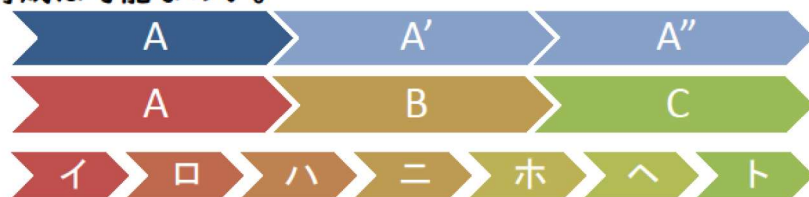
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
情報と情報との関係			
第1学年及び第2学年	話題の設定、情報の収集、内容の検討(ア) 構成の検討、考えの形成(イ)	題材の設定、情報の収集、内容の検討(ア) 構成の検討(イ)	構造と内容の把握(ア)(イ)
第3学年及び第4学年	構成の検討、考えの形成(イ)	構成の検討(イ) 考えの形成、記述(ウ)	構造と内容の把握(ア) 精査・解釈(ウ)
第5学年及び第6学年		構成の検討(イ)	構造と内容の把握(ア)
情報の整理			
第3学年及び第4学年	話題の設定、情報の収集、内容の検討(ア)	題材の設定、情報の収集、内容の検討(ア) 考えの形成、記述(ウ)	精査・解釈(ウ) 考えの形成(オ)
第5学年及び第6学年	話題の設定、情報の収集、内容の検討(ア) 構成の検討、考えの形成(イ) 構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有(エ)	題材の設定、情報の収集、内容の検討(ア) 構成の検討(イ)	構造と内容の把握(ア) 精査・解釈(ウ)

「学習指導要領解説国語編より整理」

(令和6年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

年間の指導を見通して

年間数回のトピック単元や繰り返される単元を学習すれば、育成は可能なのか。



第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、**指導の効果を高めるよう工夫**すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、**当該指導のねらいを明確に**するとともに、**単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導**すること。(学習指導要領解説P155より)

(令和6年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

知識及び技能 「情報の扱い方」



学年	「情報と情報との関係」の指導事項
第1学年及び第2学年	共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について 理解 すること。
第3学年及び第4学年	考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について 理解 すること。
第5学年及び第6学年	原因と結果など情報と情報との関係について 理解 すること。
中学校第1学年	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について 理解 すること。
学年	「情報の整理」の指導事項
第3学年及び第4学年	比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を 理解し使う こと。
第5学年及び第6学年	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を 理解し使う こと。
中学校第1学年	比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について 理解を深め、それらを使う こと。

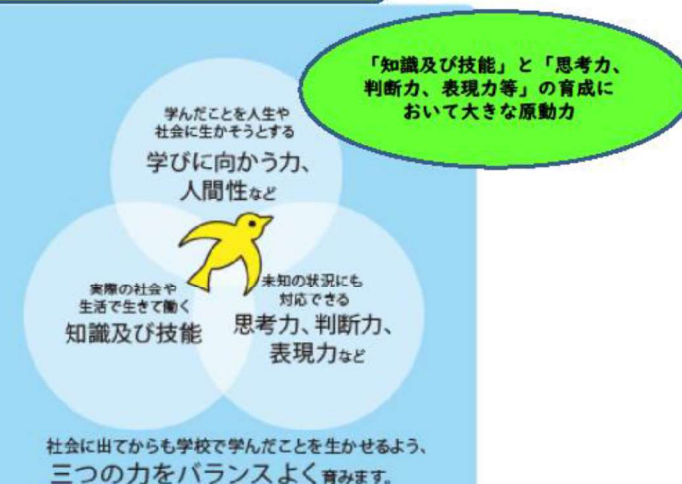
どの指導事項との関連を図ることが、指導の効果を高めるかを考え、年間指導計画を立てる段階から、よく考えていただきたい。

(令和6年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

小学校国語科における学習指導要領の趣旨の更なる実現に向けて



三つの柱の関係性は？



社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、**三つの力をバランスよく育みます。**

全面実施5年目です

(令和6年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

活用事例(話すこと・聞くこと)

小学校 第5学年及び第6学年「A話すこと・聞くこと」
ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

○タブレット型端末を使って班員同士で
提案の練習を撮影し合い、表現を工夫



自分たちで作ったおもちゃの魅力が伝わるよう、実物を使って提案する練習の様子

○タブレット型端末を使って音読練習を
録画して練習に活用



繰り返し練習、考えたことを表現・共有

【利点】

- ・自分のめあてにそって、自分のペースで何度も練習ができる。
- ・自分の表現を客観的に見たり聞いたりすることができる。
- ・授業後に、教師が子供一人一人の評価をすることができる。

文部科学省「小学校国語科の指導におけるICTの活用について」より作成

活用事例(話すこと・聞くこと)

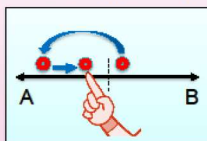
【事例におけるICT活用の場面①】

ポジショニング機能を使って自分の立
場を明確にし、教師に送信する。



【事例におけるICT活用の場面②】

仲間の意見を聞いて、自分の立場がどう
変容したかを自覚しながら、再度自分
の立場を明確にし、教師に送信する。



ノートや付箋
に仲間の意
見を聞いてど
う考えたかを
メモしていく。
ノートのメモも撮影し
て教師に送信する。

事例におけるICT活用場面①【話し合いを進める前段階】

- ・話し合う議題についての考えを学級で共有し、意見をA・Bの2つに絞っておく。
- ・児童は、その2つの意見からどちらの意見がよいかについて、自分の立場や意見を付箋に記入する。(ICT端末への入力が難しい場合は、書いたものを撮影して画面に表示しておくか、ノート等に記述させておく。)
- ・ポジショニング機能を使って自分の立場を明確にし、教師に送信する。

事例におけるICT活用場面②【全体での話し合い】

- ・司会者1名、記録者2名、評価者2名を決めておく。そのほかの児童はAの意見、Bの意見をもっておく。
- ・大型画面に、児童一人一人のICT端末を映し出し、自分の意見を述べる際には、自分のICT端末画面を拡大し、立場を明らかにして意見を述べる。
- ・仲間の意見を聞きながらどう変容しているかを、ポジショニング機能を使って明確にし、教師に送信する。→大型画面に、その都度映し出す。

児童生徒や教師にとってのICT活用のメリット

- ・通常だと発表者の立場や意見を聞くのみで全員の立場や意見を把握することが難しいが、ポジショニング機能で立場を明確にしたり、一人一人のICT端末の画面を全員で共有したりすることで、それぞれの立場や意見とその変容を把握することができる。
- ・司会者または教師がそれぞれの立場を確認して意図的な指名ができる。
- ・考えの変容が視覚化され、自己の振り返りが客観的にできる。

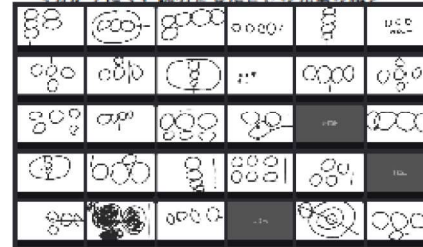
【ミライシード ポジショニング機能】

(令和3年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

活用事例(話すこと・聞くこと)

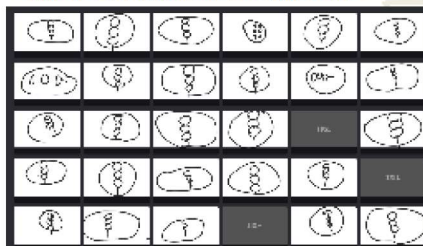
【指導の実際(一人一台端末の活用状況)】

<分かりにくい説明をしたときの児童の絵>



教師：どうして同じ説明なのにみんなバラバラの絵になってしまったのかな？
児童：どこに書いていいのかわからない、何個書いてもいいのかわからない、大きさはどのくらいかわからないからだと思う。

<分かりやすい説明をしたときの児童の絵>



今度はみんなに言われたことに気を付けて説明してみる

教師：今度はみんな同じ絵になったね。さっきの説明と比べてどうだったかな？
児童：最初の説明で分からなかったことが全部分かった。場所や数、大きさ、長さをちゃんと言ってくれたから分かりやすかった。

(令和6年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

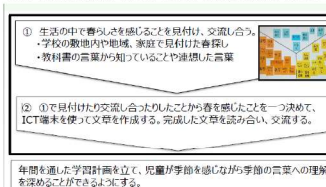
活用事例(書くこと)

育成を目指す資質・能力

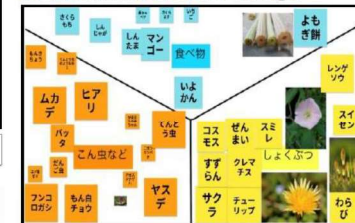
語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。

ICT活用のポイント

身の回りで見付けた春を感じたものや想像したことについて、ICT端末を活用して共有し合い、語句の量を増やし自分の表現に生かしたりする。



【事例におけるICT活用の場面①】



教科書掲載の言葉に拠り、クワッド型ホワイトボードでグループごとの共有ペース作り、ホワイトボードを背景にして、各自の持ち場で季節の言葉を1枚のシートに書き込んでいく。これによりグループのメンバーに伝えないとを即時に交流することになる。
・付箋機能は、言葉の選択に活用できる。ほかの使い方で、発言者で付箋の色を決めて使うこともできる。
・クワッド型ホワイトボードを使って自分が伝えたい言葉を写真付きでまとめる。
・それぞれのシートに子ども同士で付箋機能を使って感想を貼り合う。
・ICT端末を活用することで、各自の取組がすぐに視覚化できることから、例えば、「くらげを選んだ子どもは、同じくらげを選んだ子どもの文章の書き方をみて、表現のヒントを得たり感じ方の違いを知ったりすることができる。」
・教師は、誰が困り感をもっているのか、誰と誰が近いテーマで書いているかを簡単に見取り、子ども同士の関わりを生かすことができる。

【事例におけるICT活用の場面②】

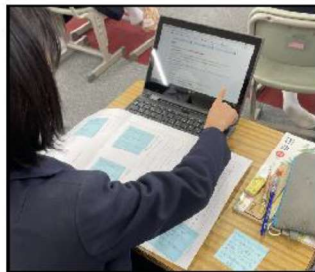


きょうの春にさくらが咲きました。さくらが咲いているのを見ました。とってもきれいな花でした。風と一緒にはさくらが落ちていました。もう春だなと思いました。

(令和3年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

活用事例（書くこと）

【事例におけるICT活用の場面①】



自分の考えを伝えるためにぴったりの情報を選ぶために・・・

情報カード（水色付箋）には、集めた情報に関する見出しと、情報の基となった本の題名とページ数やサイト名を記入しておくようにした。
⇒ 子供たち自身が、必要に応じて元の情報を確認し、追加や削除をすることができる。

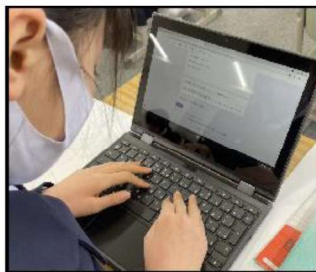
【事例におけるICT活用の場面②】



それぞれの情報の関係に合った語句を選ぶために・・・

これまでの学習の中で蓄積してきた「接続するための言葉」とその意味や使い方をいつでも確認できるようにした。
⇒ 子供たち自身が、自分が選んだ情報と情報との関係に合った語句を選ぶことができる。

【事例におけるICT活用の場面③】



学びをつなぎ、広げるために・・・

自らの学びがどのように積み上げられたか、次の時間にはどのようなことをしたいかなど、「見通す→振り返る」活動を繰り返し行うことができるようにした。
⇒ 自分の学びを自分でつくっていくという意識の高まりが期待できる。

【活用したソフトや機能】 Google社 学習支援ソフト

（令和3年度小学校各教科等教育課程研究協議会（小・国語）資料より作成）

活用事例（書くこと）

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



【事例におけるICT活用の場面①】

- 学習支援ソフトを活用し、グループの代表者のICT端末にグループメンバーの意見を集約し、メンバーでそれらと比較検討しながら話し合うことができるようにする。
- 代表者のICT端末に情報を集約することで、それを基に発表用のスライドを作成することができ、資料作成の時間短縮が可能になる。これにより、話し合いの時間を十分にとることができる。
- 情報共有の際は、この後の発表・話し合いが活発になるよう、自分たちと違う意見のグループの考えまで共有してしまわないように配慮する。

【事例におけるICT活用の場面②】

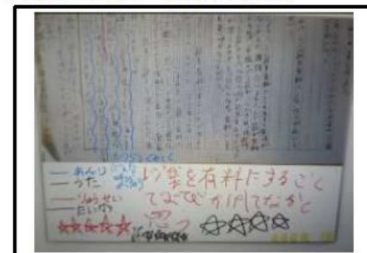
- グループでの話し合いの中で作成したスライドを、そのまま使って拡大提示装置に投影し発表できるようにする。
- 上記により、ここでも時間短縮が可能になる。これにより、だれがどのように発表するか話し合うなど、発表の準備の時間を十分にとることができる。
- 教師がスライドのフォーマットを作成する際は、児童が作成したスライドをそのまま発表に使えるよう、拡大提示装置に投影された時に教室の後部座席の児童にも見える文字の大きさなどが等にも配慮して作成する。

【活用したソフトや機能】 学習支援ソフト、拡大提示装置

（令和3年度小学校各教科等教育課程研究協議会（小・国語）資料より作成）

活用事例（書くこと）

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



①について

取り込んだ作文の画像をグループ内で共有し、互いの作品を読んでアドバイスを書き込む。
書き込む色を決めておくと誰が書いたものか分かりやすい。

②について

他の児童からのアドバイスを参考にしながら、自分の作文を推敲し、完成させる。

【ICT活用の利点や配慮事項】

- 色分けができるので、誰がどの意見を書いたのかが分かりやすい。
- 友達の意見を確認しながら、作文の入力ができる。
- 下書きの文字が薄いと、P C上の画面上では読みづらく直しづらい。
- 本人がどこを直したいと思っているのかなど、事前に伝えておく必要がある。

【活用したソフトや機能】 画像の取り込み・画像への書き込み

（令和3年度小学校各教科等教育課程研究協議会（小・国語）資料より作成）

活用事例（書くこと）

【ICT端末の操作の仕方を練習する】

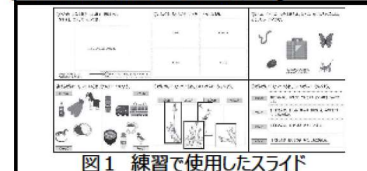


図1 練習で使ったスライド

【ミニマートの観察文に書きたい事柄を集める】



図2 「あつめるスライド」

【ミニマートの観察文の構成を検討する】



図3 「ならべるスライド」

【ICT端末の操作の仕方を練習する】（図1）

- ・ICT端末を一人で操作できるようにするために、「スライド内でカメラを起動し撮影する」「図をドラッグして動かす」「図の仲間分け（分類）を行う」「図や文を移動させて順番を入れ替える」練習をする。

【ミニマートの観察文に書きたい事柄を集める】（図2）

- ・第2学年は、キーボードで文字を打つことが難しいため、ミニマートを観察して気付いたことを付箋に書き、それを写真に撮って「あつめるスライド」に取り入れるようにする。
- ・学級の友達の「あつめるスライド」をクラウド上で共有させることで、自分では気付かなかった事柄を観察文に書くことができるようにする。

【ミニマートの観察文の構成を検討する】（図3）

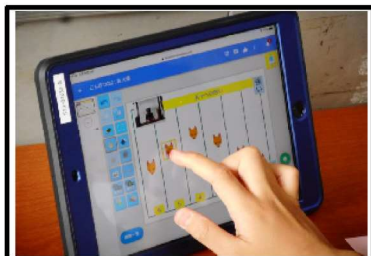
- ・あらかじめ段落や線を書き込んだ「ならべるスライド」を用意することで、観察文に書く事柄の順序を並びかえながら文の構成を検討できるようにする。

【活用したソフトや機能】 写真撮影、スライド

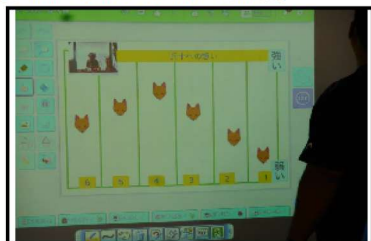
（令和3年度小学校各教科等教育課程研究協議会（小・国語）資料より作成）

活用事例(読むこと)

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



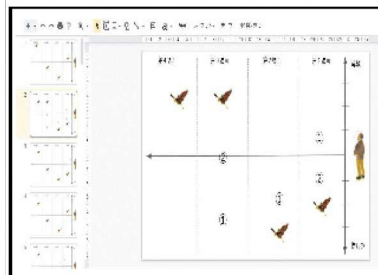
- 学習過程と事例におけるICT活用の場面との関係
登場人物の気持ちの変化を読む場で、ICTを活用して気持ちの変化を図表に表し、友だちと共有する学習に取り組んだ。
- ICTを効果的に活用するためのポイント
互いの考えを共有したり、考えたことを記録したりすることが効果的に活用するためのポイントである。自分の画面に座席表のように表示された友の考えを選択することで、自分の画面上で見ることができる。また、考えたことを記録しておくことで、その後の自分の考えと比較することができる。また友の考えの中で、良いと感じたものにマークしたり、記録したりすることで、さらに自身の考えを更新することに生かせることが期待できる。
- 児童生徒や教師にとってのICT活用のメリット
児童にとって、ICT機器は「あとで変えることができる」「やり直すことができる」という点がメリットであると思われる。最初に決めたことや書いたものがあって、友の考え等を聞いてあとで修正したいと思ったときに、容易に変更することができるため、安心してまず自分の考えを表現することができる。
教師にとってのメリットは、個々の考えを早く把握し集約することができることである。教室で学習している子どもの表情や動きなどと合わせて、子どもたちが操作している画面を通して、一人一人の学びの過程を把握することができる。また個々の考えを全体に提示することもできる。

【活用したソフトや機能】 ※「スクールタクト」

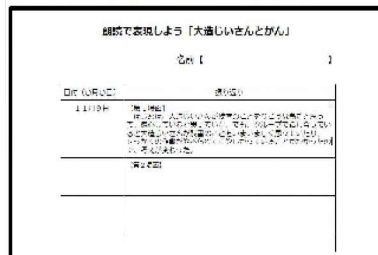
(令和3年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

活用事例(読むこと)

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



- 【事例におけるICT活用の場面①】
○教師の問いかけにより、自分の考えの曖昧さを実感することで、児童が学習の必要感をもつことができるようにする。
○残雪のイラストを座標に配置することで場面ごとに大造じいさんの残雪に対する見方を明確化する。(本学習は、特に複数の叙述を結び付けて想像する力の育成に重点を置いている。)自分の考えを明確にすることで、グループの話し合いを促進し、学びを深められるようにする。
○叙述を書いた付箋も座標に貼ることで、想像の手がかりとなるようにする。
○学習前後の考えを視覚化して比較することにより、学びの成果を実感することができる。

- 【事例におけるICT活用の場面②について】
○振り返りの視点を明確にし、共有する。
○毎時間、授業の振り返りをドキュメントに記述することで学びの成果を実感したり課題を把握しやすくなり、学びに向かう力の育成につなげることができる。
○ドキュメントの共有機能を使って、作成した文書を読み合うことで学びをさらに広げたり深めたりすることができるようにする。

- 【その他の活用例】
○デジタル教科書がある場合、教科書本文に線を引いたり、コピーしてジャムボードの付箋に記入したりすることが可能となる。

【活用したソフトや機能】 Googleスライド、Googleドキュメント

(令和3年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

活用事例(読むこと)

【事例におけるICT活用の場面①】



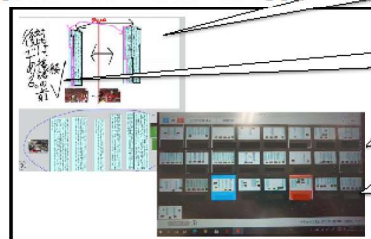
タブレット型端末を使って、筆者の説明の仕方の特徴を、視覚的に提示。

対比という説明の仕方を視覚的に理解するために、全文から対比されている事柄を学習者が取り上げて操作する。

筆者の考えとそれを支える事例(文、写真)との関係をつかむ。ノート編集機能により、文章と写真を操作し、並べたり重ねたりすることで、視覚的に筆者の伝えたいことを整理することができる。

画面共有ソフトで、自分と友達のことを比較したり関連付けたりすることができる。

【事例におけるICT活用の場面②】



コメント機能等を用いて助言し合うことができる。

児童一人一人の学習状況や、到達度合を教師が確認することが容易になる。

学びの足跡を残していくことが可能であり、家庭からも確認できるため、家庭学習に役立てることが可能である。

【本実践は別ソフトを使用したけど、同様のファイル共有ソフトでも実施可能】

(令和3年度小学校各教科等教育課程研究協議会(小・国語)資料より作成)

【本日の内容】

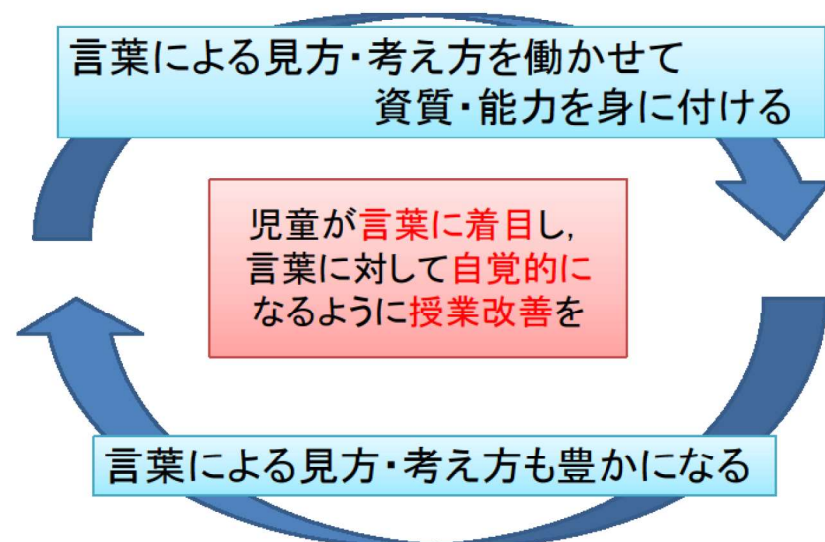
- 令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 伝達事項
- ICTを活用した授業事例
- 部会別課題について

部会別課題

言葉による見方・考え方を 働かせるための支援について

言葉による見方・考え方とは
どういうものですか？

言葉による見方・考え方と授業改善



言葉による見方・考え方を働かせるとは、

児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、**言葉への自覚を高めること**であると考えられる。様々な事象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の学習目的としない国語科においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。このため、「言葉による見方・考え方」を働かせることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながる事となる。

学習指導要領の趣旨を実現するための授業改善に向けて



すべての教科等にわたる「徳島版読解力」を生かした学力向上のポイント

「徳島版読解力」の育成をめざして

多様で複雑な現代の社会を生きていく児童生徒には、様々な形式で伝えられる情報を読み取る力や、自分の考えを形成するために必要な情報を取捨選択し、選び取った情報を解釈したり活用したりする力が必要であると考えられる。このようなこれからの社会を生きるために必要となる力を徳島版読解力と定義し、すべての教科等においてその育成を図る。

「徳島版読解力」を構成する「5つの力」

1 正確に読む力

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力

2 必要な情報を取り出す力

読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力

3 比較・関連付けて理解する力

取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力

4 見直す力

取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力

5 発信する力

取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力

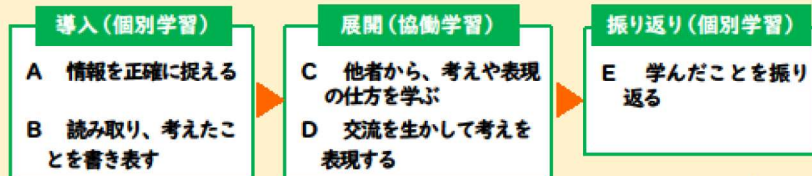


「徳島版読解力」を育成する学習のイメージ

各学習段階、学習場面【A～E】において「5つの力」を育成！

- ★全ての教科等での取組
- ★学習方法・ツールの工夫
- ★授業、授業外での繰り返し

〔授業〕



「徳島版読解力」の育成に必要な学習活動

〔授業外〕

身に付けた学び方を、新たな問題解決に活用する